

# 「現代社会研究」創刊にあたって

前林 清和<sup>1)</sup>

このたび「現代社会研究」の創刊号が、発刊されるにあたって、私なりの思いを述べさせていただきます。

20年前、阪神・淡路大震災により神戸は壊滅的打撃を受け、6,500人近くの方が亡くなり、多くの人々が家を失い、街は焼け野原になった。それ以降、多くの人々の支援を受けながら、神戸は復旧・復興を遂げてきた。未だ多くの課題は残っているが、この震災で得た教訓や防災・減災の智慧、ボランティアの精神を、安全で温かみのある社会を実現させるために次世代につなげ、世界に広めていくことが、神戸に住む私たちに与えられた使命だと考える。

本学では、阪神・淡路大震災を経験した神戸の地に、震災の教訓を活かした専門教育システムとして平成18年4月に学際教育機構防災・社会貢献ユニットを立ち上げ、社会に貢献できる人材を数多く輩出してきた。そして、昨年4月、現代社会学部社会防災学科として、新たな出発をした。現代社会学部はもとより社会防災学科の教育コンセプトはアクティブラーニング、しかもその活動が単なる学びだけでなく、同時に社会に貢献する活動を目指している。教職員と学生がタッグを組み、防災を核として社会に貢献できる人材の育成と学問的追究に専念していかなければならないと決意を新たにしている。

ところで、社会防災学科がカバーしている研究分野は、広範囲にわたる。なぜならば、防災を中心に社会貢献、具体的にはボランティアや国際協力までを対象とし、しかもそれを様々な学問分野から研究しようというものだからである。したがって哲学や社会学、行政学、情報学、教育学、工学等多くの立場から研究が行われている。いわゆる学際研究である。

学際研究というのは、単にいくつもの研究分野が混在しているというのではない。ある特定のテーマに対して複数の学問分野がそれぞれの立場から協同で研究を行う、というのが初期段階の学際研究である。それが醸成していくと共同で研究するなかから新たな知が得られ、それを参加した者が共有するというレベルになる。さらに、複数の学問分野を統合した一つ上の次元での学問体系が構築されていく。このような流れを通じて学問的イノベーションが生じ、その成果が社会的イノベーションを起こしていくことに意義がある。

そのためには、研究者がその自覚を持ちつつ、他の研究者と共同して研究を推し進めるとともに、なにより自分自身が自分の専門分野の枠内に留まるのではなく、他の研究分野にも足を踏み入れ自分自身が学際的になることが一番大きな要件なのだ。このことを肝に銘じて、私自身、研究活動を行っていきたい。

最後になったが、発刊にむけてご尽力いただいた金子勇先生をはじめ委員の方には心からお礼申し上げる次第である。

---

<sup>1)</sup> 神戸学院大学現代社会学部社会防災学科